

神秘なる秘境を訪ねて①

## 役行者を支えた前鬼・後鬼

清水 勝

「何でも読もう会」で読んだ『吉野葛』（谷崎潤一郎著）と『山海記』（佐伯一麦著）に刺激され、奥吉野と十津川村に行ってみたくなった。ツアーを調べると「奥大和秘境『天川村』と神々の棲む『玉置神社』、天空の郷『果無集落』」というのがあった。しかも小型バス利用につき二十名限定とある。早速申し込み、参加した。

天川村は全く知らなかったが、大峰山修行や登山の出发点という。この地は役行者（役小角）に纏わる伝説が多い。まずは大峰山寺の護持院の一つである『龍泉寺』に行くと、今から千三百年前に大峰山で修行していた役行者がこの地に泉を発見したことからこの名があるそう。驚いたことに、本堂の前に前鬼と後鬼の像が立っている。この二鬼は夫婦で、役行者によって罪深さを悔いて人間になることができ、役行者の修行を支えたという。

想像ではあるが、二鬼は厳しい大峰山の修行をサポートした山人を意味し、大峰山の向こう側の上北山村には山人がいた前鬼という地名があり、後鬼は天川村の山人で洞川地区にいたといわれている。その謂れが今も残っており、洞川温泉は山伏や修行者の宿になっている。宿には白い提灯が掲げられ〇〇講と書かれており、〇〇講の一行は毎年その宿に泊まるそう。

修験者は洞川温泉を出発して最初に訪れるのが龍泉寺で、ここで心身の穢れを払う水行をするそうである。残念ながら大峰山の山開きは五月三日からで、山伏さんには出会わなかったが法螺貝の練習音は聞いた。

次に行ったのは大峰山遥拝所で、ここから拝礼をした。その先には「女人結界門」があった。今や女人禁制は大相撲の土俵と大峰山だけになっている。「女人結界門」は三つの登山口すべてにあり、徹底されているようだ。

なお、現地ガイドの洞川の方は「私にも鬼の血が入っています」と笑いながらおっしゃっていた。